

## 1年生 成果と課題

本単元は、生活科の内容(6)「自然や物を使った遊び」を通して、その面白さや自然の不思議さに気付くことをめざし、本校研究主題である「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」の視点から授業改善を行った。単元全体を通して、見付ける、試す、比べる、工夫するなど、試行錯誤や繰り返す活動を多く設定することと、伝え合い交流する活動、振り返り表現する機会を大切にすることで、主体的・対話的な学びの実現に向けて学習を進めた。

### 【成果】

成果としては、以下の2つがあげられる。

1つ目は、子どもたちが主体的に学習を進めることができたことである。遊びを楽しむための準備をし、遊び、振り返る活動を繰り返し行った。子どもたちは、試行錯誤を繰り返しながら、自分のつくりたいものをつくり、いろいろな遊び方を試していた。遊びをより楽しむためにはどのような工夫ができるかを自ら考え、活動を進めていた。

2つ目は、個々の気付きを全体に広げ、みんなで考えられたことである。遊びを通してうまくいったことやうまくいかなかったこと、気付いたことなどを共有することで、自分の気付きにつなげたり、アドバイスをしたりする姿が見られた。また、友だちの遊んでいる姿を見て、新たな気付きにつながる場面もあった。

### 【課題】

課題としては、以下の2つがあげられる。

1つ目は、気付きの質を高めることの難しさである。個々の気付きを全体で共有し、自分自身についての気付きにつなげることはできていたが、豊かな生活の実現に向け、気付きの質を高めていくことが難しかった。色水遊び、しゃぼん玉遊び、水遊び、舟遊びのそれぞれの遊びでの気付きはたくさんあり、子どもたちはその気付きを教師や友だちに一生懸命伝えたり、ワークシートやあのね帳に書いていた。しかし、子どもたちの気付きに対して、気付きの質を高めていけるような問い返しや発問、子どもたちの気付きと気付きをうまくつなげていくことができなかった。単元を通して気付きの質を高める指導を行うことが今後の課題である。

2つ目は、環境作りの難しさである。なるべく大きな水槽を使って活動をしたいと考えて準備を進めたが、子どもたちのつくる舟は想像以上に大きく、水槽が舟でいっぱいになってしまった。それでも子どもたちは浮くだけで満足していたり、順番を決めて遊んだりしていたが、より大きな水槽(プールなど)を使う必要性を感じた。

